

場から断呼として反対し来り、欠員は臨時者を以て補充し得る事となつた。

一方新陳算実行期たる四月を控へて果然現業局にあらはれた新計劃は従事員に勞務の加重を強ひ事業の公共性を破壊する以外の何物でもなかつた。

三月廿四日本部に開催した第十七回執行委員会は聲明書を發表すると同時に東京選信局並に選信省訪問、支部長會議開催の件等を決定し減員反対の積極的行動に入つた二十五日には當主事、牧山、森本の本部員は東京選信局に波多野選信局長と會見し、當局の方針を質し、二十八日開催の支部長會議に於ける各職場の實狀の報告等に基づき、一、人員整理(首切り轉勤)に絶対反対し、次の如き總括的反対スローガンを決定した。(イ)郵便事業の公益性を破壊する人員整理に絶対反対、(ロ)減員に依る勞働加重待遇低下絶対反対、(ハ)資本家の行ふ産業合理化に迎合する無益なる公益事業縮少反対、(ニ)全従業員の全力を舉げて欺瞞の人員整理に反対せよ、等を決定した。

- 一、各支部代表を舉げて東京選信局を訪問減員反対をなす事
- 二、減員反対選信従業員大會を三十一日午後六時より神田

萬世橋クラブに開催する事を決定し、動員、準備等に付き各支部に指令した。

斯くて三十一日午後一時本部に集つた在京各支部代表三名は本部當主事、高地常任等と共に東京選信局を訪問し局長室に於て、波多野選信局長、佐谷監督課長、佐藤企畫課長等選信局幹部と會見し、削減豫算に依る減員、勞働加重は我等の到底承認し得ざる處であると約五時間餘の長時間に涉つて陳狀し、六時過ぎ一同は選信局を引上げ、當夜神田萬世橋クラブに於て開催の減員反対選信従業員大會会場に向つた。

本會主催の減員反対選信従業員大會は折悪しく降雨にも拘らず会場立派の余地なき迄に市内各局の現業従事員押しかけ異狀な緊張裡に七時主催者側本會當主事登壇して削減豫算反対運動經過と當面せる減員反対を強張して開會の辭に更へ、直ちに議事に入る。

- 一、選信事業の公益性を破壊する人員整理絶対反対の件(説明戸嶋豊治君)
- 二、減員に依る勞働加重待遇低下絶対反対の件(説明武藤永治君)
- 三、資本家の行ふ産業合理化に迎合する無益なる公益事業

縮少絶対反対の件(説明森本耕喜君)
四、全選信従業員の全力を舉げて欺瞞の人員整理粉砕に關する件(説明齊藤芳郎君)
等を可決し、左の如き決議をなした。

決議
現政府が強行せんとする現業官廳たる選信部内の人員整理と、之に基く無益なる事業縮少は、通信事業の公益性を破壊するものである。而して下級従事員に對しては、極端なる勞働加重、待遇低下を來すは必然である、我等は人員整理に絶対反対をなすと同時に政府當局の猛省を促すものである。

昭和六年三月三十一日
減員反対選信従業員大會
同大會は右決議を明一日選信大臣を訪問し、當局の猛省を促すべしと議決した。
實行委員選信省訪問
前記大會決議に基く各局代表二十四名は赤松會長と共に一日午後一時より選信省に至り、決議文を手交して大會の意志を述べ、當局の意見を求めたるに「甚だしき勞働加重を來さざる様考慮すべし」との回答をなした。

四月二日本部に開催した第十九回執行委員会は、減員反対開會に就き慎重協議し、次の如き具體的事項に涉る指令を發した。

- (前略)我等は當面せる各支部情勢に基き今後の闘争を減員に依る勞働加重、待遇低下反対に押し進める事を有効と認め新計劃に對して、左記條項の如きは特に周到なる注意と嚴密なる批判に依つて過重なる従来の勞働條件に、皆加重されんとする新計劃の欺瞞を曝露し、我等が體驗に基礎を置く計劃實行を獲得しなければならぬ。
- (一)電信部減員に依る食事時間短縮の如きは絶対に反対しなければならぬ。
- (二)兼配増加は減員に依る當然の結果である、従つて成績の低下するものも必然である。
- (三)徒らに従来の成績を維持せん爲め、集配手を驅使せんとするが如き監督者の態度に注意しなければならぬ。
- (四)郵便部定員減を休暇定員の減少に求めんとするゴマカシに乗つてはならぬ、結局休暇の延長となる。
- (五)ヤリクリ休暇にゴマカサれるな。
- (六)二人配置區が一人配置區となる場合あるは必然であり配達度數を減する状態になる事は當然であるがそれに依る勞務時間の延長に反対しなければならぬ。
- (七)小包配達度數減と受持配達個數増加の密接